

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月14日

【四半期会計期間】 第53期第2四半期(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

【会社名】 ユニ・チャーム株式会社

【英訳名】 UNICHARM CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 高原 豪久

【本店の所在の場所】 愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(上記は登記上の本店所在地であり実際の本社業務は
下記の場所で行っております。)
東京都港区三田三丁目5番27号
住友不動産三田ツインビル西館

【電話番号】 03(3451)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部長 秋田 泰

【最寄りの連絡場所】 東京都港区三田三丁目5番27号
住友不動産三田ツインビル西館

【電話番号】 03(3451)5111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部長 秋田 泰

【縦覧に供する場所】 ユニ・チャーム株式会社本社事務所
(東京都港区三田三丁目5番27号
住友不動産三田ツインビル西館)
ユニ・チャーム株式会社近畿支店
(大阪府大阪市北区中之島三丁目2番18号
住友中之島ビル)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第52期 第2四半期 連結累計期間	第53期 第2四半期 連結累計期間	第52期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	199,354	234,859	428,391
経常利益 (百万円)	21,668	22,948	48,361
四半期(当期)純利益 (百万円)	14,581	15,993	26,981
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	11,567	15,749	29,537
純資産額 (百万円)	228,369	256,142	243,207
総資産額 (百万円)	444,005	480,329	472,497
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	78.22	86.81	144.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	73.94	81.75	130.05
自己資本比率 (%)	47.3	46.7	45.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	29,222	31,456	59,570
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	33,763	30,169	58,861
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	14,630	6,223	36,513
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	92,340	70,462	75,926

回次	第52期 第2四半期 連結会計期間	第53期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	28.88	43.21

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、以下のとおりであります。

新規：尤?佳无?布（天津）有限公司、尤?佳包装材料（天津）有限公司、
尤?佳生活用品（江蘇）有限公司

なお、尤?佳生活用品（江蘇）有限公司の年度に係る決算日が12月31日であり、年度及び四半期に係る当社グループの連結決算日と異なるため、当第2四半期連結累計期間において連結の範囲に含めておりません。

この結果、平成24年9月30日現在では、当社グループは、当社、子会社42社（うち、非連結子会社1社）及び関連会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

また、重要な事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は、行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）における当社グループをとりまく経営環境は、引き続きアジアを中心とした新興国においてパーソナルケア関連商品の需要が拡大しております。また、国内パーソナルケア及びペットケア関連商品の需要も安定的に推移しております。

海外市場では、経済成長が続くアジア参入各国において、各国のニーズに合わせた商品を発売し、販売エリアと売上の拡大を進めてまいりました。一方、国内市場においては、高付加価値商品の提案と積極的な販売活動を実施し、市場の活性化に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は234,859百万円（前年同四半期比17.8%増）、営業利益は27,735百万円（前年同四半期比8.9%増）、経常利益は22,948百万円（前年同四半期比5.9%増）、四半期純利益は15,993百万円（前年同四半期比9.7%増）となりました。

セグメントの業績を示すと次のとおりであります。

パーソナルケア

ベビーケア関連商品

国内では、伸縮するやわらかい素材「ソフトレッチ」を採用し、ご好評を頂いております『ムーニーパンツ』シリーズのオムツの外側に、やわらかく、ふんわり感のある新素材「キルトシート」を搭載した改良品を新発売した他、低刺激によるこすれ低減をコンセプトにした『ムーニー』のプロモーション強化を進め、市場の活性化に取り組んでまいりました。

海外では、インドネシアの中間層向け紙オムツ『Mamy Poko Pants Standar』やタイの昼専用紙オムツ『Mamy Poko Happy Pants』等、各国のニーズに対応した商品の販売を強化し、売上の拡大に取り組んでまいりました。

フェミニンケア関連商品

国内では、安心・信頼の生理用品ブランドとして長きにわたり高いご支持を頂いております『ソフィ ボディフィット』から、スリムでも多い日に長時間安心して過ごして頂ける『ソフィ ボディフィット 長時間吸収スリム』を新発売した他、生理中の夜でも安心して熟睡できるナプキンとして高いご支持を頂いております『ソフィ 超熟睡ガード』シリーズのモレ防止機能を向上させた商品を改

良新発売する等、消費者の安心ニーズに応えてまいりました。また、おしゃれでかわいい生理用ナプキンとして高いご支持を頂いております『センターインふわふわタイプ』のパッケージと個別ラップを、人気の高いハート柄デザインに改良新発売した他、香水のような香りのパンティライナーとして高いご支持を頂いております『ソフィ Kiyora』シリーズに、さらに香りが長くつづくよう持続性を20%アップした商品を改良新発売し、市場の活性化に取り組んでまいりました。

海外では中国において、安心の吸収力で高いご支持を頂いております極薄タイプのナプキン『蘇菲 弾力貼身 極薄0.1』の販売促進に取り組み、売上拡大と収益力強化を図ってまいりました。また、インドネシアにおいては、お肌の快適ニーズに応える商品『Charm Extra Dry Day Wing 22cm』『Charm Extra Night Wing 29cm』を新発売し、市場の活性化を図ってまいりました。

ヘルスケア関連商品

大人用排泄ケア用品『ライフリー』の商品パッケージを、お体の状態に合わせて商品が選べるよう分かりやすく全面リニューアルした他、テレビコマーシャル、WEBサイト、店頭でのカウンセリングや日常生活動作に合わせた売り場づくりを通じて積極的な販売促進に取り組み、シェアの拡大を図ってまいりました。高い遮断性と快適なつけ心地でご支持を頂いております『ユニ・チャーム超立体マスク』からは、耳かけ部分に長時間、何度つけ外し使用してもフィット性を維持できるよう、従来の伸びる力に加え新たに縮む力を強化した伸縮素材「ソフトレッチ」を採用した改良品を発売し、新たな長時間使用ニーズに応えてまいりました。

クリーン&フレッシュ関連商品

新しいお掃除習慣としてお客様に高いご支持を頂いております『ウェーブ ハンディワイパー』からは、取替えシートのパッケージを、持ち帰りに便利で、ゴミを削減する簡易包装のポリ袋へと変更した改良品を新発売しました。また、ふき取り除菌商品としてご好評を頂いております『シルコット除菌 ウェットティッシュ』からは、アルコールの臭いが気になる方にもお使い頂けるよう、香りつきタイプの『シルコット除菌ウェットティッシュ フレッシュフローラルの香り』を限定発売し、市場創造に努めてまいりました。

この結果、パーソナルケアの売上高は196,143百万円（前年同四半期比12.9%増）、セグメント利益（営業利益）は25,309百万円（前年同四半期比8.7%増）となりました。

ペットケア

国内では、ペット飼育の5大潮流「室内飼育化」「小型犬化」「高齢化」「肥満化」「健康重視」を捉えた商品の開発と市場創造に努めてまいりました。

ペットフードは、『ねこ元気』ブランドから、複数ねこの嗜好に対応した『ねこ元気 複数ねこ用』『同 毛玉ケア』の発売と、テレビコマーシャルを通じて市場の活性化に取り組んでまいりました。『愛犬元気』ブランドからは、大型犬のための栄養バランスと食べやすさを実現した『愛犬元気 大型犬5歳以上用/10歳以上用』を発売、半生フードの『ゲインズ』からは小型犬の犬種別フード『ゲインズドッグセレクション』シリーズより、『ミニチュア・ダックスフンド用』『チワワ用』『トイ・プードル用』を発売し、市場の活性化を図ってまいりました。

ペットトイレタリーは、気になる臭いを香りで消臭する『デオシート小型犬用 ふんわり香る消臭シート』の発売と、『デオシート小型犬用』のテレビコマーシャルを通じて、デオシートの認知拡大を図ってまいりました。また、消臭力の高い『デオサンド複数ねこ用』を発売し、市場の活性化にも努めてまいりました。

海外では、アメリカHartz社において、2月にリニューアルしたノミダニ駆除滴下剤『Hartz UltraGuard Pro』が順調に推移しております。

この結果、ペットケアの売上高は36,006百万円（前年同四半期比58.2%増）、セグメント利益（営業

利益)は2,279百万円(前年同四半期比17.0%増)となりました。

その他

不織布・吸収体の技術を活かした業務用商品分野においては、産業用資材を中心に販売を進めました。

この結果、その他の売上高は2,710百万円(前年同四半期比6.1%減)、セグメント利益(営業利益)は134百万円(前年同四半期比39.9%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間における総資産は480,329百万円(前連結会計年度比7,832百万円の増加)となりました。主な増加は、現金及び預金9,962百万円、建設仮勘定の増加等によるその他有形固定資産(純額)7,453百万円であり、主な減少は、有価証券 8,297百万円によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間における負債は224,187百万円(前連結会計年度比 5,103百万円の減少)となりました。主な減少は、未払法人税等 2,066百万円、短期借入金 1,905百万円、長期借入金 1,128百万円によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間における純資産は256,142百万円(前連結会計年度比12,935百万円の増加)となりました。主な増加は、当第2四半期純利益15,993百万円であり、主な減少は、為替換算調整勘定 1,848百万円によるものです。

(自己資本比率)

当第2四半期連結会計期間における自己資本比率は46.7%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、70,462百万円(前年同期比21,878百万円の減少)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期より2,233百万円増加し、31,456百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益22,792百万円、減価償却費7,751百万円、のれん償却額2,062百万円、売上債権の増減額1,134百万円、法人税等の還付額1,393百万円等による資金の増加に対し、法人税等の支払額6,675百万円等の資金の減少があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期より3,594百万円支出が減少し、30,169百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出22,388百万円、定期預金の預入による支出8,519百万円、有価証券の取得による支出6,798百万円等の資金の減少に対し、定期預金の払戻による収入3,082百万円、有価証券の売却及び償還による収入4,698百万円等の資金の増加があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期より8,407百万円支出が減少し、6,223百万円の支出となりました。これは主に短期借入金の純増減額1,286百万円、長期借入金の返済による支出1,754百万円、少数株主への支払いを含めた配当金の支払額3,615百万円等による

ものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は2,614百万円であり、主な成果は以下のとおりであります。

パーソナルケア

ベビーケア関連製品では、やわらかく、ふんわり感のある新素材「キルトシート」を採用した『ムーニーパンツ（はいはい/M/L/ビッグ/ビッグより大きい）』を改良新発売し、品質機能面での改良によるお客様満足度の向上を図るとともに、ベビー用紙オムツ市場の活性化に努めました。

海外においては、タイ及び中国の開発拠点を中心に現地スタッフが周辺国を含め商品ニーズを適確に捉え主にアジア向けを中心に商品開発を行っております。タイを始めとする東南アジア地域においては、『Mamy Poko Pants Extra Soft (S/M/L/XL/XXL)』を改良新発売し、品質機能面での改良によるお客様満足度の向上を図るとともに、ブランド力の強化に努めました。インドにおいては低価格ながら高機能を実現したパンツタイプ紙オムツ『Mamy Poko Pants Standard(S/M/L/XL)』を発売し、エブリ（エコノミー）市場への参入を図るとともに、ラインアップ拡大によるブランド力の強化を図りました。

フェミニンケア関連製品では、生理用ナプキンカテゴリーにおいて、真ん中がふっくらで、まわりはすっきり快適な長時間安心吸収するナプキン『ソフィ ボディフィット長時間吸収スリム』を新発売し、「多い日も長時間安心して、スリムを使いたい」というお客様のニーズにお応えするとともに、ブランド力の強化を図りました。また、生理中の夜でも安心して熟睡できるナプキンとして高いご支持を頂いております『ソフィ 超熟睡ガード』に「新体感シンクロクッション」を採用し、モレ防止機能向上によるモレへの不安を解消するとともに、お客様満足度の向上を図りました。

また、成長市場であるパンティーライナーカテゴリーにおいて大好評頂いております『ソフィ Kiyora』に、香りの持続性を従来品から20%アップさせる技術を搭載し、「もっと長く香りを楽しみたい」というニーズにお応えするとともに、品質機能面の向上に努めました。

海外においては、インドネシアにおいて『Charm Extra Dry Day Wing 22cm』『Charm Extra Night Wing 29cm』を新発売し、ラインアップの拡大によるブランド力の強化と生理用ナプキン市場の活性化に努めました。

ヘルスケア関連製品では、施設・病院向け商品として、新採用のサイドののびのび伸縮テープが身体を動かしてもフィットし続けてスキマを作らずモラさない、全面通気バックシートで内部がムレずお肌を「さらさら」に保ち快適に過ごせる大人用排泄ケア用品『ライフリー快適さらさらカバータイプ』を改良新発売し、品質機能面の向上とブランド力の強化に努めました。

マスクカテゴリーにおいては、大変ご好評頂いております超立体型のマスク『ユニ・チャーム超立体マスク』の耳かけ部分に伸縮素材「ソフトレッチ」を新採用することにより、「繰り返しつけ外してもフィットし続けたい」というお客様の新たなニーズに対応した快適性の向上とブランド力の強化を図りました。

クリーン＆フレッシュ関連製品では、パーソナルウェットカテゴリーにおいて、水分をたっぷり含んだ厚手素材で、うんち汚れもこすらずスッパリ拭き取れる生まれたてのデリケートなお肌にやさしい

ベビー用おしりふき『??宝? 小屁屁柔湿巾柔嫩轻松擦』を中国において改良新発売し、顧客満足度の向上を図るとともに、更なる市場の活性化に貢献しました。

シートクリーナーカテゴリにおいて、家中まるごと1本でホコリをふき取れるとご好評頂いております『ウェーブ ハンディワイパー』では、取り替え用の外箱パッケージをカートンからポリ袋化にすることで、購入時の携帯性改善や廃棄時のゴミ削減を図り、お客様満足度の向上とブランド力の強化に貢献しました。

クッキングペーパーカテゴリにおいて、ぬらして絞っても破れないクッキングペーパーとご好評頂いております『クックアップ』では、ユニバーサルデザインを採用することにより開封時の取り出しやすさを改善し、品質機能面の改善とお客様満足度の向上に貢献しました。

なお、パーソナルケア事業においては、廣仁会褥瘡・創傷治癒研究所・医仁会中村記念病院との共同研究を通じて、『新しい被覆・保護材による創面の適度な湿潤環境保持の検討（第1報）（廣仁会褥瘡・創傷治癒研究所）』や『新しい被覆・保護材を使用した事例検討（廣仁会褥瘡・創傷治癒研究所・医仁会中村記念病院）』など、製品の安全性や品質機能のエビデンス構築を進めるとともに技術広報活動による研究成果の公表に努めました。

以上の結果、パーソナルケアにおける研究開発費の金額は2,243百万円であります。

ペットケア

ペットケアにおける研究開発費の金額は370百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、ペットケアにおける研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

その他

その他における研究開発費の金額は0百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、その他における研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	827,779,092
計	827,779,092

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	206,944,773	206,944,773	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	206,944,773	206,944,773	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		206,944,773		15,992		18,590

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(有)ユニテック	愛媛県四国中央市川之江町4087 - 24	37,105	17.93
(株)高原興産	東京都港区高輪3丁目25 - 27 - 1301	10,256	4.96
高原基金(株)	愛媛県四国中央市川之江町1712	9,360	4.52
日本生命保険(相)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	5,804	2.80
日本マスタートラスト信託銀行(株) (退職給付信託口・広島銀行口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	5,762	2.78
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	5,220	2.52
日本トラスティ・サービス信託銀行 (株)(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8 - 11	5,220	2.52
(株)伊予銀行(常任代理人 資産管 理サービス信託銀行(株))	愛媛県松山市南堀端町1 (東京都中央区晴海1丁目8 - 12 晴海アイ ランドトリトンスクエアオフィスタワーZ 棟)	5,099	2.46
ゴールドマン・サックス・アンド・カン パニーレギュラーアカウント(常任 代理人 ゴールドマン・サックス証券 (株))	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木 ヒルズ森タワー)	4,679	2.26
高原産業(株)	東京都港区高輪3丁目25 - 27 - 1011	3,690	1.78
計		92,199	44.55

(注) 当社は自己株式を22,695千株(10.97%)保有しておりますが、議決権がないため上記の大株主より除外しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,695,300	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 184,184,500	1,841,845	-
単元未満株式	普通株式 64,973	-	-
発行済株式総数	206,944,773	-	-
総株主の議決権	-	1,841,845	-

(注)「単元未満株式」の欄の普通株式数には、当社所有の自己株式33株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ユニ・チャーム(株)	愛媛県四国中央市 金生町下分182番地	22,695,300	-	22,695,300	10.97
計	-	22,695,300	-	22,695,300	10.97

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,956	76,919
受取手形及び売掛金	2 50,404	2 47,869
有価証券	19,908	11,611
商品及び製品	18,067	19,511
原材料及び貯蔵品	14,911	15,180
仕掛品	682	647
その他	19,793	19,644
貸倒引当金	86	77
流動資産合計	190,637	191,307
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	32,334	32,953
機械装置及び運搬具（純額）	59,160	61,318
その他（純額）	25,326	32,779
有形固定資産合計	116,821	127,051
無形固定資産		
のれん	78,905	76,895
その他	18,804	17,405
無形固定資産合計	97,709	94,301
投資その他の資産		
前払年金費用	5,746	5,684
投資有価証券	14,299	14,296
繰延税金資産	45,146	45,066
その他	2,326	2,823
貸倒引当金	190	201
投資その他の資産合計	67,329	67,669
固定資産合計	281,859	289,022
資産合計	472,497	480,329

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2 45,778	2 44,218
短期借入金	8,267	6,361
未払法人税等	4,348	2,282
賞与引当金	4,003	4,256
その他	43,964	45,482
流動負債合計	106,361	102,601
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	80,585	80,546
長期借入金	35,219	34,090
退職給付引当金	2,754	2,680
その他	4,369	4,267
固定負債合計	122,928	121,585
負債合計	229,290	224,187
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,992	15,992
資本剰余金	18,802	18,806
利益剰余金	238,568	251,610
自己株式	52,925	52,920
株主資本合計	220,437	233,488
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,180	4,170
繰延ヘッジ損益	13	16
土地再評価差額金	157	157
為替換算調整勘定	11,372	13,220
その他の包括利益累計額合計	7,362	9,224
新株予約権	958	1,311
少数株主持分	29,174	30,566
純資産合計	243,207	256,142
負債純資産合計	472,497	480,329

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	199,354	234,859
売上原価	107,365	127,774
売上総利益	91,988	107,085
販売費及び一般管理費	¹ 66,531	¹ 79,350
営業利益	25,457	27,735
営業外収益		
受取利息	401	384
受取配当金	156	156
その他	287	305
営業外収益合計	845	846
営業外費用		
支払利息	190	191
売上割引	2,103	2,424
為替差損	2,236	2,967
その他	103	49
営業外費用合計	4,634	5,633
経常利益	21,668	22,948
特別利益		
固定資産売却益	1	24
その他	1	6
特別利益合計	3	31
特別損失		
固定資産処分損	931	131
災害による損失	453	-
事業構造改善費用	² 52	² 56
その他	58	-
特別損失合計	1,495	187
税金等調整前四半期純利益	20,175	22,792
法人税、住民税及び事業税	3,851	3,858
法人税等調整額	242	219
法人税等合計	4,093	4,077
少数株主損益調整前四半期純利益	16,082	18,715
少数株主利益	1,501	2,721
四半期純利益	14,581	15,993

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,082	18,715
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	9
繰延ヘッジ損益	14	4
為替換算調整勘定	4,514	2,951
その他の包括利益合計	4,514	2,965
四半期包括利益	11,567	15,749
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,772	14,132
少数株主に係る四半期包括利益	795	1,616

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	20,175	22,792
減価償却費	5,964	7,751
のれん償却額	1,710	2,062
賞与引当金の増減額(は減少)	350	264
退職給付引当金の増減額(は減少)	131	32
売上債権の増減額(は増加)	2,692	1,134
たな卸資産の増減額(は増加)	2,416	2,693
仕入債務の増減額(は減少)	836	674
その他の流動負債の増減額(は減少)	562	2,721
その他	1,504	1,718
小計	28,503	36,395
利息及び配当金の受取額	598	555
利息の支払額	189	213
法人税等の還付額	3,063	1,393
法人税等の支払額	2,754	6,675
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,222	31,456
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	4,404	8,519
定期預金の払戻による収入	1,273	3,082
有価証券の取得による支出	7,397	6,798
有価証券の売却及び償還による収入	2,382	4,698
有形固定資産の取得による支出	11,047	22,388
有形固定資産の売却による収入	383	142
関係会社株式の取得による支出	15,205	-
その他	251	385
投資活動によるキャッシュ・フロー	33,763	30,169
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	418	1,286
長期借入金の返済による支出	11,057	1,754
配当金の支払額	2,604	2,946
少数株主への配当金の支払額	499	668
少数株主からの払込みによる収入	-	518
その他	50	85
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,630	6,223
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,495	527
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	20,667	5,464
現金及び現金同等物の期首残高	113,007	75,926
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 92,340	1 70,462

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、新たに設立した尤?佳无?布(天津)有限公司及び尤?佳包装材料(天津)有限公司を連結の範囲に含めております。 また、当第2四半期連結会計期間において、尤?佳生活用品(江蘇)有限公司を新たに設立いたしました。当該会社の年度に係る決算日が12月31日であり、年度及び四半期に係る当社グループの連結決算日と異なるため、当第2四半期連結累計期間において連結の範囲に含めておりません。 これによる変更後の連結子会社の数は、41社です。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
協同組合クリーンプラザ 2百万円	協同組合クリーンプラザ 0百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
受取手形	214百万円	190百万円
支払手形	422百万円	407百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
販売運賃諸掛	10,389百万円	11,194百万円
販売促進費	26,771百万円	32,196百万円
広告宣伝費	6,497百万円	7,862百万円
従業員給与・賞与	5,346百万円	6,998百万円
賞与引当金繰入額	1,791百万円	1,789百万円
退職給付費用	640百万円	765百万円
減価償却費	554百万円	1,099百万円

2 事業構造改善費用

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の事業構造改善費用は、パーソナルケアセグメントに係る事業再編関連費用であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	67,542百万円	76,919百万円
有価証券勘定	38,604百万円	11,611百万円
計	106,146百万円	88,530百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	8,105百万円	12,568百万円
株式及び証券投資信託の受益証券	5,701百万円	5,500百万円
現金及び現金同等物	92,340百万円	70,462百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月30日 取締役会	普通株式	2,609	14	平成23年3月31日	平成23年6月6日	利益剰余金

(注)平成22年10月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割いたしました。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年10月31日 取締役会	普通株式	2,982	16	平成23年9月30日	平成23年12月5日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月31日 取締役会	普通株式	2,947	16	平成24年3月31日	平成24年6月6日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	3,132	17	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				セグメント間 取引消去 又は全社	四半期連結 損益計算書 計上額
	パーソナルケア	ペットケア	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	173,705	22,763	2,885	199,354	-	199,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	7	7	7	-
計	173,705	22,763	2,892	199,361	7	199,354
セグメント利益(営業利益)	23,273	1,947	224	25,445	12	25,457

(注) 従来、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法)を採用していましたが、当連結会計年度よりすべての有形固定資産について、定額法に変更しております。これに伴い、従来の方法によった場合と比べ、営業利益は、パーソナルケアにおいて1,385百万円、ペットケアにおいて129百万円、その他において30百万円それぞれ増加しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				セグメント間 取引消去 又は全社	四半期連結 損益計算書 計上額
	パーソナルケア	ペットケア	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	196,143	36,006	2,710	234,859	-	234,859
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	8	8	8	-
計	196,143	36,006	2,718	234,868	8	234,859
セグメント利益(営業利益)	25,309	2,279	134	27,723	12	27,735

(注) 当社の連結子会社であるユニ・チャーム国光ノンウーヴン(株)は、平成24年1月17日付で当社の連結子会社であった(株)アクエイトを消滅会社とする吸収合併を実施いたしました。これに伴い、従来その他セグメントに含めていた(株)アクエイトの売上高及び利益の金額は、パーソナルケアに含めております。なお、前第2四半期連結累計期間の「報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」につきましては、当該変更後の金額に組み替えて表示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	78円22銭	86円81銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	14,581	15,993
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	14,581	15,993
普通株式の期中平均株式数(千株)	186,422	184,247
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	73円94銭	81円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	28	28
(うち、社債利息)	(28)	(28)
普通株式増加数(千株)	10,393	11,049
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第53期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の中間配当については、平成24年10月31日開催の取締役会において、平成24年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 3,132百万円

1株当たりの金額 17円00銭

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年12月3日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月12日

ユニ・チャーム株式会社
取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	小澤元秀	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	齊藤剛	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	椎野泰輔	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているユニ・チャーム株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ユニ・チャーム株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。